

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第1回）会議要録

- 1 日 時 令和6年7月3日（水）18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所 412 会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、川鍋、熊田、見城、坂井、酒井、鈴木、西田、馬場、福本、町田、宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 千種会長、福島常務理事、田村事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

(1) 開 会

(2) 委嘱状の交付

(3) 会長挨拶

【会 長】 本日はご出席賜りまして誠にありがとうございます。第5次武蔵野市民地域福祉活動計画は、令和6年3月に策定された武蔵野市第4期健康福祉総合計画・第6期地域福祉計画と連動して、市民を主体とした福祉活動の一層の推進のため、策定を進めていかなければならないと思います。

今年度末までの期間となりますが、ご尽力を賜りたく、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(4) 委員紹介

(5) 事務局紹介

(6) 正副委員長の選出

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱第5条に基づき、委員長に熊田委員が選出された。また、副委員長に酒井委員が指名された。

(7) 議 事

議事に入る前に、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会傍聴基準に基づき、委員会の傍聴について諮り、承認された。また、会議要録について、武蔵野市民社会福祉協議会ホームページへの公開が承認された。

【委 員】 傍聴に関する周知の状況について教えてもらえますか。

【事務局】 ホームページで周知しております。

【委 員】 知人に声をかけてよいのでしょうか。

【委員長】 問題ありません。

①第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）策定にあたって別紙資料 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定にあたってに基づき、熊田委員長より説明を行った。

【委員長】 何か全体的なことでも、意見がある委員はいますか。

【副委員長】 委員長から、わからないことでも自分の思ったことは発言してくださいと話があったので、私からも安心して話してくださいとお伝えします。委員長からは、武蔵野市が他の自治体と比べて非常にユニークであるというお話がありました。今日は初めてお会いする方や他の自治体に住む方もいるので、ボランティアセンター武蔵野（以下「VCM」）運営委員会委員長として少し知識を共有したいと思います。別紙資料① 武蔵野市民社会福祉協議会法人設立40周年記念誌の14ページには10年間の主な出来事が書かれています。武蔵野市は、江戸の大火により家を焼かれた人々が命からがらこの土地に辿り着き、地元の農家の人たちが「うちの土地を使って」と支えてくれた歴史があります。次に、関東大震災で東京の中心から武蔵野市へ着の身着のまま多くの人が移り住み、農地だった土地の区画整備が行われました。そして最後に、第二次世界大戦の戦火から逃れてきた人たちが新たに住民となったのですが、知識人や文学者や芸術家が多数いたことにより、武蔵野市として市制施行した当初から個人の自由を尊重し、市民参加でまちづくりを行うことがスタートしています。このことを具体的に示す例として、武蔵野市は社会福祉協議会が設立されるより前に、市民主導でボランティアセンターができています。そして社会福祉協議会設置の際は名称に「市民」の文字を入れて「武蔵野市民社会福祉協議会」としました。また、委員長からお話があったとおり、地域福祉活動計画は法の規定に基づく計画ではないため、計画の名称にも市民の文字が入っています。このように、武蔵野市は他者を受け入れる風土、そして、市政開始当初の個人の自由や意見を尊重する特徴を踏まえて、委員の皆さまもユニークな意見をどんどん出していきましょう。現在の武蔵野市民は約15万人で、新たに移り住んできた多くは子育て世代です。武蔵野市が形成される過程を知らない新しい市民に、住んで良かった、ずっと住み続けることを誇りに思ってもらえる計画策定に向かい、大いに話し合しましょう。

【委員長】 副委員長より話があったとおり、武蔵野市は、先駆的に様々取り組まれてき

ました。今も先駆的に取り組んでいると思いますが、その先駆性というのは、行政だけで行うことや、社協だけで行うだけではなく、市民、行政、社協、それからその関係の事業者の皆さんで一体的に進めることが大事だと考えています。副委員長より話のあったとおり、誇りを持って取り組むということが、やはり大事だと思いました。

【委員】 副委員長より話のあった通りですが、武蔵野市は非常に革新的な取り組みを行ってきました。コミュニティ構想なども先駆的なものだと思いますし、地域の皆さんは一生懸命様々なことに取り組んでいます。これまでの取り組みによって、一部が固定化し、進行が停滞している部分もあるかもしれません。既存の取り組みを強化するという必要だと思いますが、既存の取り組みを改めて精査し、それを効率的に繋げることが、今回の活動計画の中で最も重要なことではないでしょうか。

【委員長】 VCMの初代委員長である西尾先生により、70年代にコミュニティセンター構想が生まれましたが、その構想はいわゆる自立した市民を実現するための一つの実験だったと思います。そこが今も大事に取り組まれています。ただ、一方でその構想が50年経過し根詰まりしてきているところがあるだろうと思います。そういったところは、今後皆様のご意見を聞きながら、引き続き考えていけるといいのではないかと思います。

【委員】 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）の3ページ目には2024年の目標が書かれています。ここには理想とする姿が示されていると思いますが、第5次活動計画はおそらく第4次活動計画の成果を踏まえて立てられるでしょう。第4次活動計画で設定した目標はどれだけ達成されたのか、その評価を含めて今後の展望が第5次活動計画の基盤を形成すると考えます。また、2019年から2024年はコロナ禍でしたので、第4次活動計画の完遂は容易ではないと思います。委員も指摘されたように、これらの点が考慮されるべきです。そのためにも、第5次活動計画に入る前に現状を振り返り、フィードバックして見直すことが重要だと感じました。

【委員長】 第4次活動計画が策定された後、計画を進行管理するための推進委員会が年に2回程度開催されているのですが、今年の6月に最後の委員会を開催し、その報告書をまとめています。次回の委員会では、皆様には推進委員会の報告書を踏まえ、振り返りや今後の方針について意見をいただきます。その意見を踏

まえ、第5次活動計画に繋げていきたいと考えていますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

【副委員長】 私が武蔵野市の成り立ちについて話したとき、市民自ら積極的に参画していたことを伝えましたが、まさにその取り組みを支えてきた方々が現役で今も活動されているからこそ、武蔵野市での暮らしは健やかなのだと思います。話は変わりますが、武蔵野市に住みたいと思って移り住んだ子育て世代が、高い家賃を理由に直ぐに引っ越してしまうことがないよう、武蔵野市の素晴らしさが反映された計画になれば良いと考えています。

【委員】 副委員長より話のあった内容に大賛成です。先人たちが苦勞されてきて、先進的なシステムを築いていることは、日本でも誇るべきものです。地域社協で日々活動している先輩方は本当に素晴らしい方々だと感じています。今回の計画に携わらせていただく際には、“ふつうにくらすためのしくみ”を大切にし、その結果として後続の世代が先進的な取り組みだったと認識してもらえような役割を果たせればと考えています。

【委員】 福祉の活動は、物凄く幅広いと思います。地域社協、子育て、生活困窮、障がい者や高齢者等、様々な活動がある中でも、地域の中で活動している方が同じ顔という状況を私は30年間ずっと見てきて、何かやりづらいと思いました。地域で“ふつうにくらすためのしくみ”ということと言い換えれば、多様な人々が、自分らしく暮らす仕組みということだと思います。全ての福祉を何とかしようという計画を立てると、幅広過ぎる割には、視野が狭いのではないかと思います。例えばLGBTQの方やWケア、子育て、高齢者等、それぞれの分野で活動している人たちは沢山いると思います。そのような当事者が不在の形で計画を進めていくことに限界があるのではないかと感じています。私は、防災関係の活動をしているのですが、コロナ禍で3年間活動がストップしました。それにより、活動の担当者がみんな変わっていて、実際活動ができないという人たちが多くて、新たに自分が代表になってから、色々な分野の方々に声をかけてもう一回作り直しています。そうすると、この分野はこの人たちに任せてやらせよう、こうしてもらおうという意見が出ました。そのため、同じ人が担当していると、視野が狭くなっていくというのが、何か感じているところなので、地域福祉のシステムとして、誰がどこまでやるのかということをお願いしながら、進めていきたいなと思います。

【委員長】 地域福祉計画や地域福祉活動計画について、その基盤として住民のつながりが重要であるという考え方は、確かにそうだと思います。過去から現在に至るまで、地域社会では問題が生じた際に互助的な解決が行われてきましたし、これが現代社会でも重要であることは間違いありません。たとえば、農村などの伝統的な地域では、子育てなどのサービスが不十分な場合でも、住民同士が力を合わせて子育てを支え合っている例があります。ただし、高齢者の数が増えた今日では、100年前と比べると高齢者の支援が不足していた時代もあったかもしれませんし、姥捨てのようなことも行われたと言われています。つまり、互助には限界がある一方で、何ができるかは多岐にわたるとも言えます。しかしながら、現代の都市においては、地域内のつながりをどう構築していくかについて、簡単な解答は存在しないとも言えます。委員が推進する防災活動は、その一例であり、地域のつながりを築く重要なキーであると考えます。ただし、依然としてつながりが薄い人々も存在し、意識の違いもあります。つまり、関心のある人々は取り組みに参加する一方で、無関心な人々は参加しないという状況もあります。これが同じ顔ぶれでの活動継続につながる要因の一つでもあると考えます。そうした中で、私たちはどうやって現在の都市におけるつながりを築いていくか、様々な手法を模索している段階にあると率直に思います。地域のつながりを作る方法については、マニュアル等で対応することが難しいことであり、皆で知恵を出しながら考える必要があると感じます。武蔵野市においても特有の地域の複雑さがあり、他の地域と同じ取り組みが通用するかどうかは未知数です。また、地域福祉活動計画自体が対象を限定しない漠然とした計画であるため、理解しづらいことは当然だと思います。しかし、地域福祉活動計画は福祉を推進するための基盤であり、それゆえ対象が明確ではないこともあります。障害者福祉計画や子どもに関する計画など、法令に関する計画は対象が明確ですが、地域福祉計画や活動計画はあらゆる人々に関わるため、誰を対象にすれば良いのか見えにくい側面もあります。したがって、どの地域も模索しているこの問題に対し、私たちの考えが武蔵野市に適する方法であるかを、委員の皆様のご意見を出しあいつつ探っていきたいと思っています。また、武蔵野市に住む人々は、特定の地域への緊密なつながりを求めているわけではないと考えます。むしろ、武蔵野市らしいお付き合いの仕方やつながりの形として、何が適しているのかを考える必要があると思います。

【委員】 これからの武蔵野市らしいつながり方を考える必要があると話がありました
が、今まであったつながりが徐々に消えていくことをどうするかも大きな問題
だと思います。かつては町会や商店会などの自治組織が地域でお祭りを開催し
ていました。そのように機能していた自治組織のつながりがなくなりつつあり、
沢山の人がそのようなつながりを継続したいと思っているものの、継続できな
い現状があります。先ほどの話を聞いて、既になくなったつながりは、なかつ
たものとして、新しいつながりに変えていくという発想なのかなと感じました。

【委員長】 あくまで今まであったつながりを大事にするということは大前提にあるため、
それは誤解であることをまずお伝えします。それを踏まえ、武蔵野市の場合は
自治会・町会がなかなか機能しないというか、元々ないというように言われて
おりますが、例えば他の自治体では解散した自治会・町会を復活させようとい
う話もあります。

【委員】 自治会がなかったというのは、誤解だと思います。武蔵野市の中では、行政
の枠組みの中でそれが見えていなかっただけだと思います。私が住む地域では、
商店会があり、それも一つの自治会だと思います。西尾先生によりコミュニ
ティセンター構想が生まれた時代から機能していた自治会が、今なくなりつつあ
るということが問題だと考えております。

【委員長】 ありがとうございます。そのような自治会や町会の問題について、どのよう
に向き合っていくかをこの策定委員会で議論しなければならないと考えており
ます。今後も、私が事実と異なることを伝えておりましたら、是非お伝えいた
だきたいと思います。本日は私が話題提供をしましたが、第5次活動計画は皆
さんで作る計画であり、これから多分グループワーク等にて様々な意見を出し
合ってもらいます。そのような意見に対して、「こうしたほうがいい」等と議
論しつつ、まとめていけると良いと思っています。

【委員】 委員長の説明の中で、包括的支援体制という用語が出てきましたが、これが
できた経緯というのがあります。その経緯が東日本大震災で被災した石巻市の
事例であり、震災発生前より地元の行政と社協と石巻専修大学で三者協定を進
めていたことで、浸水地域に近い石巻専修大学を拠点として災害ボランティア
センターを運営し、支援団体の円滑な受け入れをすることができました。この
事例により、つながるきっかけとなったテーマは、防災になります。私はつく
ば市にも社協に関する研修目的で伺っておりますが、つくば市は地盤が硬く、

災害リスクが少ないため、住民は防災に関してあまり関心を持っておりません。今後、武蔵野市における地域の特性を共有しつつ、新たな人々を巻き込むためのテーマとは何かを話し合うのはどうかと思いました。

【委員長】 委員会では皆さんが一丸となって意見を出し合うことが重要であり、それぞれの立場での意見を尊重しながら、良い計画を作るためにはこの前提が欠かせません。この勢いを保ちながら半年間、進めていけば良い計画ができると感じています。事務局の皆さんにも支えてもらいながら、副委員長と共に、引っ張りながら進めていければと思います。今日得たことを踏まえ、次回の会議でも深めていきたいと考えています。皆さんの勇気ある意見に感謝しています。これからも武蔵野をより良いまちにするために、生活の課題に向き合っていくたいです。これから半年間、どうぞよろしくをお願いします。

②地域懇談会の参加の呼びかけについて

別冊資料⑥ 地域懇談会チラシに基づき、事務局より説明を行った。

(8) 今後の進め方について

資料5 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 策定スケジュール等に基づき、事務局より説明を行った。

【委員長】 ほかになければ、これで第1回の策定委員会を終わります。